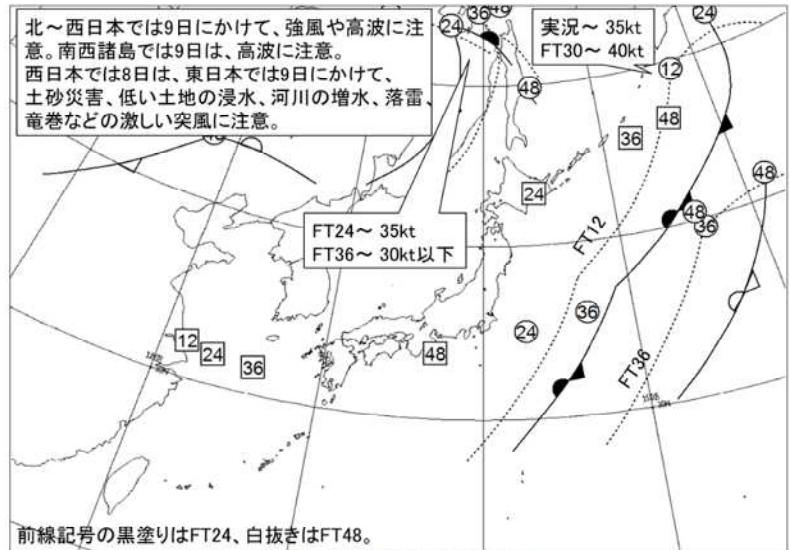


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5400～5520m のトラフに対応する低気圧が千島近海を北東進。この低気圧から前線が日本の東～伊豆諸島付近を通り、日本の南にのびている。
- ② 日本海～黄海付近には 500hPa -18℃以下の寒気を伴った 5520～5700m のトラフが南下。このトラフに対応して下層シアラインが西日本～東日本を南下しており、東日本では雷を検知し、1時間におよそ 30mm の激しい雨を解析。
- ③ ①の低気圧や前線と日本のはるか東や大陸の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、北～西日本では、強い風が吹いて、波が高くしけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項②の 500hPa -18℃以下の寒気を伴ったトラフは8日夜には東～西日本太平洋側へ進み、これに対応する下層シアラインが東～西日本を南下。このため、東～西日本では大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降る所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 2項①のトラフは、9日には東日本を東進し日本の東へ進む。これに対応し、関東の東海上にある2項①のシアライン上に9日朝には低気圧が発生し、その後北東へ進む。このため、東日本では9日も大気の状態が不安定となる所がある見込み。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項①のトラフと前線を伴う低気圧は8日夜にはカムチャツカの東へ進む。また、9日はアムール川中流域から沿海州へ進む5400m付近のトラフに対応する低気圧が前線を伴ってサハリン付近へ進む。この低気圧や前線と、華北から東シナ海へ移動する高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、東～西日本では9日にかけて強い風が吹いて波が高くなり、西日本ではしける所がある。日本海側では吹送距離の長い北東風によるうねりの影響を受ける見込み。また、南西諸島でも9日は、やや強い風が吹いて波が高くなる所がある。強風や高波に注意。
- ④ 2項①の-18℃以下の寒気を伴ったトラフと 850hPa 0℃以下の寒気の影響で、東日本～北日本の標高の高い所では雪が降り、9日午前中にかけて積雪となる所がある。積雪や路面の凍結による交通障害に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで)：近畿・中国・九州北部地方4、北海道・東北・北陸3m。③大潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。